

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム紫竹庵

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

川井 洋子

評価完了日

24 年 8 月 16 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 毎月行っている月例会議にて職員で話し合い、新しい理念を作成した。行動指針も各職員で話し合い、実践につなげている。全職員が理念の意味を理解し、日々利用者と接している。運営推進会議を利用し、地域の方々に現状を知っていただき、理解を深めてもらっている。</p> <p>(外部評価) 事業所が平成20年に移転してから数年を経たこともあり、事業所では、改めて「より良いケアを目指していこう」と、理念を新たに作成されている。職員で半年間ほど話し合いを重ねられて、今年6月に「寄り添い、笑いあう、マイホーム」と事業所理念をつくり、さらに「1. その方の思いに気づき、見守ります。2. 好きな事を知り、行動を共にします。3. 地区の行事に参加し、外出の支援をします。」と行動指針を示されている。理念は、8月の運営推進会議時に紹介し、又、ご家族にも手紙で報告された。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 地域のイベントには利用者と職員で参加している。回覧板や散歩・買い物等、積極的に利用者と外出し地域の方々と自然と挨拶を交わしている。野菜や花をいただいたりもする。</p> <p>(外部評価) 日々の散歩時には、地域の方達と挨拶を交わしたり、ゴミの日には、利用者と職員でゴミを出しに行かれている。事業所に救急車が止まる等、変わったことがあると、近所の方は、利用者のことを心配して来てくださる。隣家の方は、畑で採れた珍しい品種の野菜を持って来てくださったり、彼岸花の鉢植えを時期に合わせて持って来てくださる等、事業所のことを気にかけてくださっている。時には、近所のフラダンスのグループの訪問があったり、婦人会の方々は大正琴を聞かせてくださる。7月には介護相談員の方の紹介で、幼稚園の催しへ出かけ、園児のお遊戯やバザーを楽しまれた。利用者の楽しむ様子がみられ、管理者は、「これを機会に幼稚園の運動会に行かせてもらったり、事業所にも来てもらうきっかけになれば」と話しておられた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で、実際に事業所であった事例を紹介し、理解を求めたり支援方法を話したりしている。参加していただいた地域の方々から質問や相談をいつでも聞き、力になれるよう努力している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) いろいろな議題を挙げ、意見・感想を毎回頂戴している。介護経験のある方から、実体験の話をお聞かせいただき、地域密着型としてのサービス向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 会議には、地区の町内会長や隣接する地区からも町内会長が参加してくださっている。又、民生委員、介護相談員をはじめ、近所の方々も毎回参加してくださっている。会議では、参加者から地域の高齢者について相談を寄せられることがあり、それらをテーマに挙げ、意見交換することもある。9月の会議は「防災の日」に合わせて、消防署にも協力を得て開催され、参加者は、地震体験車を体験された。会議は、ご家族にも案内を出し、又、会議議事録を送付しておられるが、遠方の方や高齢の方も多く、参加することには難しさもあるようだ。</p>	<p>管理者は、「今後さらに高齢者に役立つ情報を提供して、地域にも貢献できる会議にしていきたい」と話しておられた。ご家族の参加は、それぞれの事情もあって難しいようであるが、ご家族にとって有益な情報が多い会議になっており、又、利用する側であるご家族の意見や要望は、事業所のサービス向上につながる貴重な声でもあり、ご家族にも参加いただけるよう、今後も働きかけを工夫されてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市社協からの介護相談員を継続して受け入れている。運営推進会議にも参加していただき、外部の研修でお会いすると自然とお話もできる。利用者の立場からの聞き取りや、気付きを伝えて下さり、相談にも応じていただき、協力関係が築けている。</p> <p>(外部評価) 月2回、3名の介護相談員を受け入れておられ、毎回、歌を歌ったり、手遊び等を楽しみながら利用者とお話して下さっており、「喫茶店に行きたい」等、利用者が希望していることを聞き取ったり、「庭木の枝が通行の妨げになるので、剪定してはどうか」とアドバイスして下さることもある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日々の業務を通じて、身体拘束になるかどうかを話し合い、他の対策・考え方を検討しながらケアに取り組んでいる。日常的な言葉がけや対応などにも、職員間で気付きを共有しながらアドバイスしあっている。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠せず、出入りが自由になっており、外で子どもの声がすると、利用者が一人で出てみるような場面もみられる。利用者が近所の方や子ども達と話しているような時には、職員は、そっと見守り、タイミングをみて「ご飯ですよ」と声をかける等されている。車いすから体がずり落ちそうになる利用者には、低反発クッションを使って調整されたり、心身の状態によっては、居室で横になって休む時間等を作り、無理せずに過ごせるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や日々の業務で虐待の具体的な例をあげ、話し合い勉強を行っている。利用者の状態を把握し、虐待が見逃される事が無いよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) まだ学ぶ機会を設けていない。活用できるよう、今後学ぶ機会を作りたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族とは面会や電話連絡を通じて、不安や疑問の解決にすぐに対応できるようにし、十分な理解と納得が得られるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者は日々の生活から、ご家族からは面会や電話・手紙連絡を通じて、意見・要望を聞いている。ご家族へ写真を送ったり、運営推進会議への参加を呼びかけている。介護相談員は、利用者の声を吸い上げて報告してくれている。職員が新しく入ったり移動になった時は、御手紙にてお知らせしている。 (外部評価) 毎月、利用者個別に、日々の様子や行事等の写真を載せて便りを作成し、職員からのメッセージも添えてご家族に送付されている。職員の入れ替わりや勤務体制等の関係もあって、ご家族から「訪問時だけでは、どんな職員がいるのかが分かりにくい」という意見が出され、事業所では、職員全員の名前を紹介する手紙を、毎年、年末の行事案内に同封して知らせておられる。又、新人職員は、その都度写真入りの手紙で紹介されている。	ご家族と利用者との関係性やご家族の事情等、いろいろなことがあり、運営やケア等について、ご家族の意見や要望を引き出すことには難しさもあるようだが、グループホームの意義や目的等にも沿って、運営推進会議に参加していただいたり、家族同士で話す場を設ける等、事業所にさらに関心を持っていただいて、意見をうかがえるような機会作りを工夫されてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月例会議や個別面談時などに職員の意見や提案を聞いた り、その場で回答・実行できるものは取り入れるようにして いる。	
			(外部評価) 月例会議は、できるだけすべての職員が出席できるよう、シ フト等も配慮をされている。管理者は、「職員のアイデアや 提案等を出し合い検討すること」を大切にされており、会議 時、管理者は、席を外して職員のみで話し合う場を作られ ることもある。お菓子作りの得意な職員が、子どもの日に「こ いのぼりケーキ」を焼いて来られ、皆でおやつを楽しまれたこ ともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、や りがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は管理者から日々の勤務状況の報告を受け、ホー ムや職員の労働に必要な環境・条件の検討・実行をして いる。また、会議やレクリエーションを通じて直接会話を 持っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている	(自己評価) 研修等、開催される情報を収集し、職員全員に研修へ参 加できる環境を作っている。研修参加のための勤務変更も 行える。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価) 他施設で開催されるイベントにも入居者様と積極的に参加 している。代表者が交流を持ち、当ホームの認知度が高い ため職員が参加した場合に有効的に受け入れてもらえる。 また、職員同士の交流で勉強になる。本年度はグループ ホーム連絡会の調整役をさせていただいている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価) ホームに慣れていただき、安心して暮らしていただけるよう、 ゆっくりと声かけをし、話していただく言葉に耳を傾けてい る。知り得た情報を、職員全員が把握し信頼関係の向上に 努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人・ご家族同席のもと、今までの生活や環境などをしっかり聞き取り、不安・心配・要望等を一緒に考え、信頼関係を作っている。家族会(書類)を作成し、近況報告や家族とホーム、双方の意見・要望を記載し、職員全員への情報共有を行っている。ご家族への職員紹介も節目で行っており、顔の見える介護を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントをしっかりと行った上で、ご本人・ご家族の言葉を大切により良い対応ができるように努めている。今ご本人がどうしたいのか、ご家族が何を望んでいるのかをしっかりと見極め、介護・医療・在宅サービス等、他方面からの対応が出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その方のできる事を見つけ、職員と一緒にやっている。洗濯物であれば歩行のできる方に取りこんでもらい、車椅子の方にたたんでいただいている。仕事を共にする事で、共に暮らしているという関係が築かれている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の生活状況を電話や月報でお伝えし、協力をお願いしている。ご家族の想いや絆を大切にしながら、また専門的なアドバイス等もさせて頂きながら共に支えて行くケアを目指している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時にその方の馴染みの場所に足を運んだりしている。介護相談員やボランティアを積極的に受け入れ、よく知った顔見知りの関係を増やしている。 (外部評価) ご自宅の様子に気になる利用者には、職員と一緒にご自宅まで行ってみられることもある。利用者から「行きつけの美容院にパーマをかけに行きたい」と希望があれば、ご家族と相談してお連れするよう、計画しておられる。毎週水曜日には、松山大学の学生が6名、継続してボランティアに来てくれており、学生は、利用者の昔話を聞いたり、足をさすったりしてくれ、一緒に過ごされている。今夏は、一緒に松山まつりにも出かけられた。利用者は、学生とアイスクリームを食べながら見物する等、大変喜ばれ、夜はぐっすり眠られたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間でのいじめや仲間はずれの無いよう、気配り・目配りを行い、仲の良い方は隣同士で会話を楽しめるよう席などにも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所される利用者の家族へのケアとして、今後の相談にも応じたり、手紙を書いたり御見舞に行つて力になれる事はなにか努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ひとりひとりの表情や会話の内容等から、何を望まれているのか？どうしてほしいのか？を知る事が出来るよう、コミュニケーションを大切にしている。肉体労働の介護ではなく、考える介護を実践できるよう努めている。 (外部評価) 入居前の情報や日々のケアや会話から得た情報をもとにして、利用者個々の得意なことを継続して楽しんでもらえるよう、支援しておられる。そろばんが得意だった方にそろばんを用意されたり、料理の得意な方には、味付けや調理の仕方を教えていただくような場面を作っておられる。テレビCMを見て「美味しそう。あんなの食べてみたい」という利用者があると、職員は、利用者ハンバーガーやインスタントラーメンを買いに行かれたり、みんなでランチバイキングに出かけることもある。毎月、日々の記録をもとに情報を職員間で話し合い、利用者個々の担当者が取りまとめておられ、最新の情報を手元に置き、介護計画につなげるようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者本人との会話や、家族との面談により、情報収集をし、職員全員が共有してケアにあたっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの生活習慣を把握して、日々の言動を介護記録に記入し、職員間で共有し、手出し・口出しを極力避け、見守るケア(有する力を発揮できるケア)に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 申し送りで日々の気付きを共有しケアプランに反映させている。ご家族の意向も面談時にうかがい家族会に記録し共有している。月例会議で現状を話し合いケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は3ヶ月ごとに見直し、状態に変化のあった方は、その都度見直しておられる。月例会議では、介護計画の内容についてモニタリングを行い、次回の見直しにつなげておられる。ご家族から「持病のこともあり、血行促進と脚の皮膚の手入れをしてほしい」と、ケアへの要望があった際には、介護計画に採り入れ、足浴を支援された。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の状態変化に目を向け、チェック欄に記録し朝夕の申し送りで情報を共有している。ケアプランの見直しにつなげておられる。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者及び家族からの要望は柔軟に。かつすぐに対応できるものはすぐに。その日その時に必要と思われる支援が実行できるように取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域密着型の施設を目指すべく、地元・地域でのイベント等の参加を積極的に行っている。あいさつ等、自然な交流を忘れないよう努めている。また、7月からすみれ幼稚園との交流が出来るようになった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時に主治医・かかりつけ医の希望をお伺いし、ご本人・ご家族が希望する医療機関を利用している。専門病院受診時には、管理者が同行しご家族と共に状態を伝え、適切な医療を受け入れられるよう支援している。	
			(外部評価) 毎週、月～土曜に協力医が往診に来てくださっている。調査訪問時、めまいの症状があるという利用者が、医師にお薬について質問したり、相談されたりしている様子がみられた。利用者の状態によっては、夜間や日曜日にも往診してくださるようになってきている。毎週金曜日には、看護師の訪問があり、バイタルチェック等、利用者の健康管理をされ、感染症や季節ごとの体温調節、足のむくみの解消法等、ケアにつながるよう、アドバイスをくださっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護師よりケアの仕方を教わったり、質問の出来る関係が築かれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入・退院時は、主治医より情報提供書により情報交換を行い、管理者がご本人・ご家族・医療連携室と密に連絡を取りながら1日も早くホームに戻って頂けるよう関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 24時間医療が必要となった場合は、管理者がご家族と話し合い事業所で出来る事を説明・ご理解頂けるように努めている。また、主治医とご家族との話し合いを持ち、主治医の連携病院と共に支援している。	
			(外部評価) 入居の際には、看取りについて説明を行い、ご家族と利用者アンケートを実施し、終末期のあり方について「気持ち」を聞いてもらえるが「今の時点ではわからない」という方がほとんどのようである。その後は、状態変化時に、再度アンケートを取り、意向の確認をされている。現在、事業所では、看取り支援に備え、緊急時や夜間の急変時の対応のマニュアル化について、話し合いを重ねておられる。職員は、「最期までご自分らしい人生を送ってほしい。お好きなものを最後まで口から食べていただきたい」と話しておられた。	利用者やご家族によっては「最期は自宅に戻りたい」と希望する方もあるようだ。利用者やご家族の希望に沿った支援に取り組めるよう、具体的に体制作りに取り組まれてほしい。ご家族の不安や心配ごと等も聞き取りながら、時には、ご家族と一緒に勉強する機会等も作ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急マニュアルを作成し、確認・訓練を行っているが、職員の入替わりもあり、すべての職員が実践を身につけているわけではない。救急車を呼ぶ訓練は身につけている。H22・10月には、負傷時の応急処置についての勉強会を行った。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月1回は避難訓練を行っているが、夜間帯の訓練が行われていない。幸い職員の生活圏がホームと近いため心強い。H23・6月と9月に消防署員を招いて防災の勉強を地域の方と共に行い、協力体制のお言葉をいただいた。 (外部評価) 年2回、消防署の立ち会いのもと防災訓練を実施しておられ、6月には、昼間の火災を想定した避難訓練が行われた。水消火器を使用した消火訓練を実施し、又、利用者も参加して、車いすや歩行で避難にかかる時間を計ってみられた。消防の方からは「利用者が昼寝をしている場合には、男性職員が抱えて避難した方が早い」と、アドバイスをいただいた。管理者は、避難した利用者の見守り役の重要性等も感じておられ、隣接する民家の方々にも、いざという時の協力をお願いされている。備蓄は、水、食料ともに2週間分、又、防災グッズを入れたリュックは10名分用意しておられる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ひとりひとりの育った環境・生活歴・職業歴等を把握し、その人に合った言葉かけや対応を心掛けている。 (外部評価) 脱衣所にポータブルトイレを置き、つい立を立てて、トイレが使用中で間に合いそうにない場合には、利用できるようにされている。玄関に置いている他者のくつを履いて出かけて行くような利用者もあり、職員は、そっと見守り、ご自分の靴をはけるようサポートされている。又、来客者の靴は、職員がそっと仕舞うようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人が希望を表した時は、行動制限せず実行したり、自己決定出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人の気持ちを大切にし、その人に合ったペースで生活できるように努めている。どうしたいかご本人の気持ちやご希望を聞き、それに沿えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人と一緒に洋服を選んだり、その方の好みで季節に合った服装ができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を聞いて食事の内容を決めたり、出来る方に来る事をしていただき、準備や片付けを行っている。味付けや調理方法、話し合ったり教わりながらしている。	
			(外部評価) 食事作りは特に担当を決めず、その日その日で職員間で決めて作っておられる。献立は、冷蔵庫の中の食材を見て決めたり、利用者の希望をお聞きしながら決めておられる。パンがお好きな利用者が多く、朝食は、パンとご飯の両方を用意して選べるよう支援されており、スープや味噌汁、おかずを利用者の希望で選べるようになっていく。利用者は、ゆで卵のゆで具合を知る方法や、ごぼうのさがきの上手な仕方を教えてくださることもある。日によって食事がすすまない利用者もあるが、職員は、利用者をスーパーに誘い、お好きなパンや果物を買えるように支援する等、お好きなものを食べることで食欲につながるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) お粥食・トロミ食・ミキサー食と個別に対応している。栄養面は定期血液検査により貧血など把握したうえで好みの食材から摂取できるよう努めている。又1回の食事・水分量が少ない時は時間を開けて摂取してもらったり、好みの物を摂取してもらっている。夜間も水分摂取の支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎日うがい、出来る方は歯みがきをし、毎食後はうがいや入れ歯洗浄している。寝る前には義歯をあずかり歯ブラシで洗った後、洗浄液に付けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツや紙パンツは極力使用しない方向で統一している。個人のレベルに応じてトイレ誘導したりして、自立やそれに近い状態に戻れるよう支援している。	
			(外部評価) トイレに行きたい時「車いすのハンドレバーを触る」等、職員は、利用者の体の動かし方にも注意して観察をされており、利用者それぞれのサインをつかみ、そっと声かけてトイレ誘導しておられる。おむつを使用した状態で入居された場合でも、「自分で行きたい」というご本人の様子が見られれば、トイレに座ってみることを支援されており、排泄の自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便記録を毎日チェックし食物繊維の多い食材にしたり、水分摂取を十分にしている。身体を動かしたり腹部マッサージも取り入れている。散歩に行き歩いたりしている。	
			(外部評価) 入浴記録をチェックし個々のタイミングに合わせて入浴を実施している。レベルによって浴槽に入りづらい方も椅子を利用する等工夫して入浴を支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴がお好きでない方には、無理強いせず、声かけを工夫して入浴につながるよう支援されている。職員は、系列グループホームの入浴支援を見学した際、仲の良い利用者同士で入浴するような場面があり、さっそく事業所にも採り入れてみられた。利用者同士で背中を流し合ったり、会話したりしながら入浴されたようだ。	
			(外部評価) 自由に自室で休まれている時は邪魔をしない様にし、休息が必要な時はタイミングを見ながら誘導している。夜間は室内温度に気を付け安眠できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に自室で休まれている時は邪魔をしない様にし、休息が必要な時はタイミングを見ながら誘導している。夜間は室内温度に気を付け安眠できるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 現在服用している薬に関しては管理者が管理している。薬の支援や症状の変化の確認は朝夕の申し送り徹底し当日のリーダーが報告する事になっている。服薬時は職員間で確認の声掛けの実施をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物・散歩・ドライブ・料理等、得意な事を理解し一日が楽しく充実するよう支援している。学生ボランティアの受け入れを頻繁に行っており、その時々に来る事を共にしてもらって楽しんでいただくよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々のその日の希望・身体状況を把握し買い物や外食へ出かけるようにしている。ドライブでは海や山・公園、イベント会場等多方面の楽しみが味わえるよう支援している。 (外部評価) 食材は、職員と利用者が近隣のスーパーへ買い物に行かれ、一緒にレジに並んで袋詰めもして、利用者が荷物を持ってくださることもある。毎年、初詣やお花見、流しそうめん等、季節の外出をみんなで楽しんでおられる。お花がお好きな方が多く、菜の花やコスモス、菊花展等にも鑑賞に出かけておられる。お花見の際には、介護度が重度で横になる時間が長い利用者も、車いすでお連れして、桜の木の下で過ごされた。調査訪問時には、お寿司のお好きな利用者が、近々出かける予定の回転寿司のことを話してくださいました。職員は、地区の回覧板の行事案内を見ながら「健康ウォーキングに行ってみようか。軽食も付いとるね」と、利用者との外出計画を立てておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホーム内では金銭の所持をされている方はいないが職員と買い物に行った時にはレジで支払いをする楽しみや、物がかごに入れる喜び等を味わえるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望される場合にはご家族にとってよい時間を見計らって電話をし、手紙は字の練習をしたりし送る写真を一緒に選んだりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 談話室からは庭の緑が見え、外の車の音、近所の方の声が聞こえたり、来客者の姿も見る事が出来る。強い光や色は避け、生活感のある居心地の良い環境であるように工夫している。	
			(外部評価) 事業所は、民家を改装した事業所で、門構えや庭も以前の様子をそのままに、和風の落ち着いたたたずまいとなっている。食事をしたりテレビを見たりして過ごす談話室には、座り心地の違ういくつかのいすやソファを配置しておられ、利用者は、その日によって好きな席で過ごされている。歌のお好きな利用者が多く、時にはラジオをかけておられ、懐メロが流れてくると自然に口ずさみ、又、歌詞等について会話が弾むこともある。ご家族の来訪時には、他の利用者が台所でお茶を入れたり、「お腹が空いとるかもしれん」と、おにぎりを作ってもてなすような場面も見られるようだ。調査訪問時には、料理の得意な利用者を中心となって、おやつにおはぎを作っておられた。又、利用者は、洗濯物を干したり、取り込んだりしておられ、ご自分の洗たくものをそれぞれでたためるよう支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 談話室には、気の合った方と会話されたり、テレビを見たりラジオを聞いたり台所で料理をしたり、ご本人が居たい場所で寛げるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) どの部屋からも庭が見え緑が多い。ビワの木が見えたり、季節の野菜を植えているのが分かる。部屋の中には小物入れ、ぬいぐるみ等思い出の物がある。面会の多い方の居室にはソファを設置した。	
			(外部評価) どの居室も風通しが良く、持ち込まれたテーブルでご家族と一緒にお茶を楽しまれたり、ご家族が好物のおかずを持って来られ、居室で一緒に楽しむ方もいる。遠方から会いに来られたお孫さん達と撮った記念写真を飾っておられたり、置き時計や湿度計を置いている方もみられた。脱衣かごを用意し、明日着る洋服や下着を用意しておく利用者もいる。利用者のご家族の方が、利用者の方数分「鶴のペーパークラフト」を作ってください、それぞれに飾っておられた。ベッドで寝ている間、寝がえりや体を動かして壁に当たらないよう、壁面にマットを立てかけている居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) したい事を奪わず、やれることをやってもらい、出来る事はお願いして見守るといのがホームの自立へ向けた取り組みである。トイレや自室の場所もわかるよう表示をしている。	